

# 平日と休日の迷惑メール数の変遷

情報処理技法(リテラシ) I

杉並善子先生

現代教養学部〇〇学科△△専攻

knnx1001 東京子

20nn年6月20日提出

## 第1章 はじめに

電子メールは、現在、業務や日常生活で広く使われている。同時に、その手軽さや便利さゆえに、迷惑メールも横行している。迷惑メールは、大量に受信することにより、電子メール利用者の業務や生活に支障をきたしかねないものである。1日に受け取るメールの90%ほどが迷惑メールであり、実際に業務に大きな支障をきたしている、という人もおり[1]、大きな社会問題となっている。

業務でメールを利用する人は、休日には業務用の電子メールは読み書きせず、平日のみに行う人も多い。この場合、平日は、業務中に届いたメールをその都度読むが、休日に届いてしまったメールは、休日明けの平日に、重要なものをピックアップして読むものと考えられる。迷惑メールを送信する側からすると、平日に迷惑メールを送る方が、他のメールとまぎれて、迷惑メールも読まれる可能性が高い、と考えるのではないか。また、このように、迷惑メールの傾向を分析することで、よりよい迷惑メール対策につながるのではないか。

そこでこのレポートでは、迷惑メールの傾向の調査の一環として、迷惑メールを受け取る件数について、平日と休日で違いがあるのかを明らかにする。具体的には、平日と休日で、届いた迷惑メールの件数を調査し、比較する。

このレポートの構成は、第2章で迷惑メールの定義、第3章で平日と休日の迷惑メールの件数調査の結果について述べる。そして第4章で迷惑メールの件数の調査結果に対して考察を行い、第5章でこのレポートのまとめを行う。

## 第2章 迷惑メールの定義

迷惑メールは、以下のように定義される[2]。

サーバに過大な負荷をかけてメールサービスの機能低下をもたらすことを目論んで大量のメールを送りつけるスパムメールや、望んでもいない商品の宣伝のメールなど利用者個人が受け取りたくないメール

迷惑メールの差出人は、送り先メールアドレスをコンピュータで大量に作り出し、一斉に迷惑メールを送信する。そうして大量に送信したメールの中から、返信をしてくる利用者を待っている。利用者がメールに返信することで、その利用者のメールアドレスが存在することを知ることが、迷惑メールの差出人にとって重要なのである。そして、迷惑メールの差出人は、返信をしてきた利用者に対して、さらに多くの迷惑メールを送り続ける。

現在は、メールソフトウェアに、迷惑メールを検知し、自動で振り分ける機能もついていることも多く、手動で振り分けをしなければならなかった以前の状況に比べて、状況は改善されている。しかし、迷惑メールではないメールが迷惑メールとして振り分けられることもあるため、迷惑メールを全く確認せずにすませることはできない。

## 第3章 迷惑メール件数調査

このレポートでは、平日と休日で、送られてくる迷惑メールの量の違いの有無について明らかにすることを目的としている。そこで、休日(土曜日と日曜日)を合計4日分、平日を4日分、迷惑メールの件数を調査した。なお、調査日に祝祭日は含んでいない。

## 第1節 平日の迷惑メール件数の調査結果

図1に平日の迷惑メールの件数の調査結果を示す。調査日はランダムに抽出したが、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日と、すべて異なる曜日であった。この結果より、平日の1日あたりの迷惑メールの平均件数は25.5件であった。

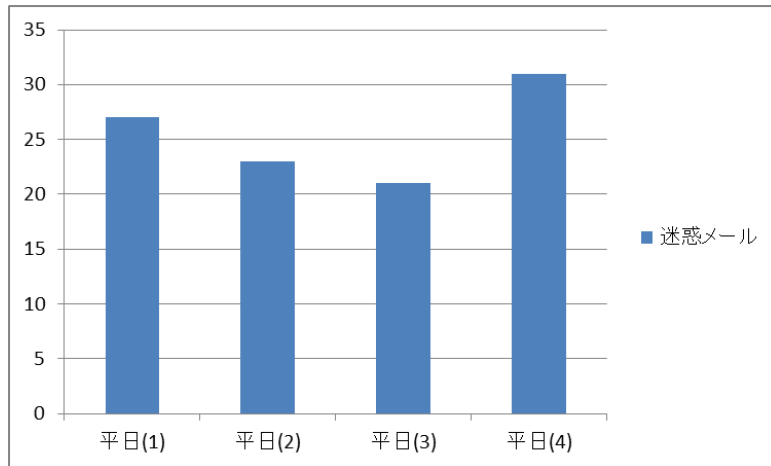


図1: 平日の迷惑メールの件数

## 第2節 休日の迷惑メール件数の調査結果

図2に休日の迷惑メール件数の調査結果を示す。調査日は、平日と同じくランダムに抽出し、土曜日と日曜日がそれぞれ2日分ずつであった。この結果より、休日1日あたりの迷惑メールの平均件数は23.0件であった。

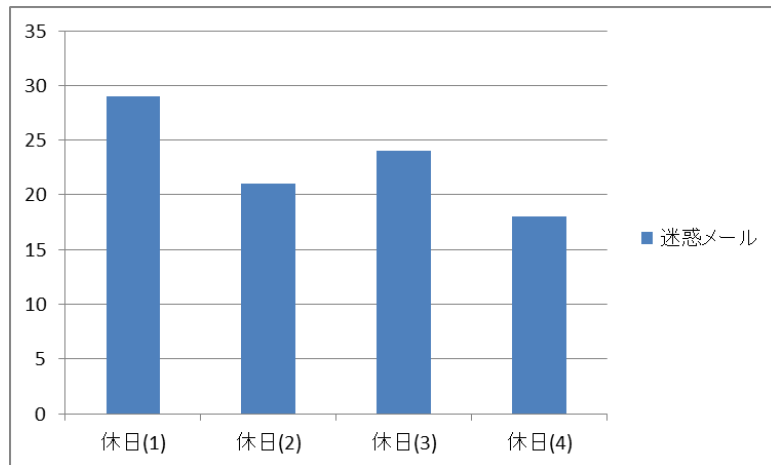


図2: 休日の迷惑メールの件数

## 第4章 考察

図1と図2を比較すると、平日の最小件数が21件、最大件数が31件であり、休日の最小件数が18件、最大件数が29件であるため、やや平日の件数の方が多くなっている。しかし、1日あたりの平均が、平日は25.5件、休日は23.0件であり、1.5件しか変わらない。また、平日でも休日よりも件数の少ない日も存在する。以上より、今回の調査結果からは、平日と休日の迷惑メールの件数の違いは誤差の範囲内と考えられるため、件数の違いはないと考えられる。

## 第5章 おわりに

このレポートでは、業務や日常生活に支障をきたす恐れのある迷惑メールについて、その傾向の分析の一環として、受信した迷惑メールについて、平日と休日の件数の比較調査を行った。今回の調査結果としては、平日と休日で件数の大きな違いは見られなかった。

そこで、よりよい迷惑メール対策のためには、さらなる迷惑メールの傾向の分析が必要である。具体的には、迷惑メールの内容や、文章の言語、差出人・返信先のドメインなどの調査が有効であると考えられる。

## 参考文献

- [1] 善福寺花子, 迷惑メールの現状と対策, 月刊セキュリティ 20nn年4月号, 東女出版, 20nn年, pp. 23-24
- [2] 東京女子大学情報処理教育運営委員会, 情報処理技法(リテラシ)I テキスト 20nn年度版, 株式会社文伸, 20nn年, p. 73